

# 関係性の未来

# THE INTERNET'S "BLACK HOLES"

情報過多の現代。日刊新聞はスクープを競い、テレビは秒刻みでニュースを伝える。しかし、超スピードで過ぎ去るこれら情報にどれだけの真実が含まれているのか。政府や企業に都合のよいプロパガンダばかりが氾濫しているのかもしれない。ある人々にとって都合の悪い情報も市民に知らせる。それがジャーナリストの本質だ。またそれは市民の知る権利でもある。しかし、レポーターへの抑圧、逮捕、殺害により、報道の自由が阻害される場合がある。それを世界的にモニターしているのが「国境なきレポーター」だ。レポーターが生命の危険なく仕事ができるように様々な面でサポートし、サイバー上の表現の自由についても主導的な役割を果たしている。アメリカ代表のタラ・ドラチャヒさんにお会いし、なぜ今「国境なきレポーター」が必要とされるのか、お話を伺った。

## 国境なきレポーター

(Reporters Without Borders, フランス語の頭文字をとり、rsfと省略される)

1985年、フランス人ジャーナリスト、ロベルト・メナードによって設立。ジャーナリストだけではなく広い意味でのレポーターへの抑圧、逮捕などを世界的にモニターし、報道の自由を支える。具体的な活動としては、各政府への陳情・抗議やレポーターへの法的アドバイスや資金援助などがある。また、インターネット上の表現の自由にも主導的な働きかけをしており、ブロガーなどの市民ジャーナリストの保護も重視する。

## タラ・ドラチャヒさん (Tala Dowlatshahi)



「国境なきレポーター」アメリカ代表。アムネスティや他の国連関連団体を経て、4年前から従事。ジャーナリストとしても活躍しており、人権問題を中心に世界各国の雑誌、新聞に寄稿。グラスルーツから働きかける新しいタイプのジャーナリストとしてCNNなどでも紹介される。イラン生まれのアメリカ育ち。現在はNYとスイスを拠点に世界を飛び回る。カリフォルニア大学マスコミ学士号、ニューヨーク大学国際政治学修士課程取得。



www.rsf.org

# レポーターへの 国境を越えたレポーターの勇気と危険 抑圧を監視せよ。



...authorities  
...maker and blogger Hao Wu.  
...has not been charged with a crime.  
**We appeal to the Chinese government  
for HAO WU's immediate release.**



Marouane Khazaal



Rim Zeid

Rapports et déclarations des Amnistie Internationale  
Mali-Cote d'Ivoire au droit de l'homme des M  
Moulin Ryma Wala, Pigeoniers sans frontières  
Préface de Robert Menzies et postface d'ONG

**LA GUERRE EN  
IRAK,  
LE LIVRE NOIR**

Documents révisés et présentés par  
Reporters sans frontières

**AU RYTHME OU L'ON TUE LES JOURNALISTES EN IRAK  
VOUS SEREZ BIENTÔT OBLIGÉ D'ALLER CHERCHER  
L'INFORMATION VOUS-MÊME**

DEPUIS LE DÉBUT DE LA GUERRE, IL Y A TROIS ANS, 86 JOURNALISTES ONT ÉTÉ TUÉS EN IRAK  
N'ATTENDEZ PAS QU'ON VOUS PRIVE DE L'INFORMATION POUR LA DÉFENSE

## レポーターは詳細を知る貴重な証人だ

椰子の木の横に立つ人気のないニューススタンド。その隣で炎を上げる爆破直後の車。周囲を覆う重苦しい黒い煙。「国境なきレポーター」(以降、rsfと略す)のサイトに行くとき真っ先に目に飛び込んでくる画像だ。横にはこう書かれている。

「イラク戦争が始まって3年、すでに88人ものジャーナリストが命を落としている。この割合でいけば、そのうち自分でニュースを集めてくるしかなくなるだろう」

ジャーナリストがいなくなる？ シニカルすぎるようだが、専制政治や戦争状態の下では、報道の自由に対する深刻な抑圧が続いているのが実情だ。

「世界で3分の1の人々は表現の自由のない国で暮らしています。2005年には63人のレポーターが殺害され、2006年現在、119人が投獄されています。rsfの任務は『市民が情報を得る権利を守る』ことです。出来事の詳細を調べ上げていくレポーターはしばしば事件の唯一の積極的な証言者であり、レポーターへの抑圧はその鍵となる証人を排除し、市民が情報を得るという権利を脅かすものです」とタラさんは語る。

1985年設立当初はフランス国内での問題を取り扱っていたが、すぐにレポーターへの抑圧は世界的な問題であることに気付き、国際機関として拡大していった。現在は100人以上の通信員の他、各地域に地元レポーターを配置し、草の根的連絡網を持つ。情報収集は迅速で、問題が起こるとすぐに視察を送り、状況を調査する。早さ、詳細、正確さを重視する。

## シンボルとしての誘拐 レポーターをめぐる新しい現象

rsfが関わる多くのレポーターは、不当に投獄されている。そこでrsfは彼らの釈放を呼びかけ、政府に圧力をかける。レポーターには法的援助を行い、必要であれば資金の援助もする。

しかし、ここ数年新しい現象によって活動内容が広がった。レポーターの誘拐だ。グローバル化する



「国境なきレポーター」のサイトのフロントにも使われている写真。イラク戦争が始まって3年、すでに88人ものジャーナリストが命を落としている

メディア市場。それにもとない、拡大し迅速化するニュース。カタール首長国のアルジャジラなどのようにアラビア語圏の視点を世界に伝える放送が注目を集め、一方でブログなどの市民ジャーナリストが台頭する。

「メディアが拡大化、迅速化、多様化する中で、レポーター誘拐はそのレポーターの出身国の海外政策のシンボルとして使われるようになりました。ベトナム戦争時のように出来事を伝えるという客観的な存在ではなくなったのです。レポーターはその国のアジェンダに何かしら責任があると思われるのです」

日本人レポーターがイラクで誘拐された際に「自己責任」という言葉が話題になった。それに対しタラさんはこう語る。

「一般市民は政府からの警告に従うべきですが、誰が中に入って取材するのでしょうか。レポーターは何が起きているのかを取材するのが仕事です。レポーターが国際的な安全基準を守る限り、彼らの身に起こったことは彼らの責任ではありません」

rsfは、戦地での安全対策や保険のアドバイスの他、

防弾チョッキのレンタルなども行っている。

## ブログはサイバー反体制者の新しい戦線だ

インターネットの発達によって情報伝達のあり方は劇的に変化した。

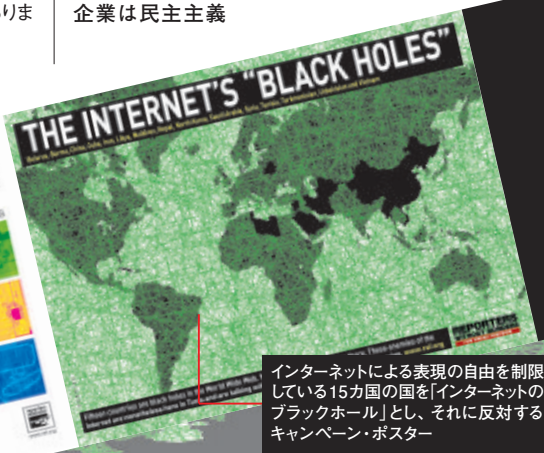
「インターネットはパワフルなツールです。ロシアの傀儡政権を倒したウクライナのオレンジ革命の基盤力ともなりました。しかし、多くの国では同様なことが起こるのを非常に警戒しています」

その筆頭をいく国が、何億もの資金をつぎ込み、サーバー監視では世界最高のレベルにある中国だ。ユーザーは1億人を超え、年20%近くの勢いで増えている。その監視に3万人のインターネット警官が休みなくモニターする。

「中国で反政府的な言葉を打てば、『サーバーが見つからない』と出てきます。しかし、これはその言葉がブロックされているからです。それを助けると見られているのがアメリカのGoogleやYahoo!です。企業責任を掲げる民主主義国の企業が言論の自由を抑圧する政府に協力しているとしたら残念なことです」

中国政府に従い、Googleは検索フィルターを設置に合意し、マイクロソフトのMSNは要注意ブログを取り外し、Ciscoはサイトのサブページをフィルター、ブロックする監視システムを提供。また、rsfは、Yahoo!が要求のあったメール使用者のIP情報を政府に提供し、それが、反政府活動家やレポーターの逮捕に繋がったと主張。先日、Yahoo!の本社の前で抗議デモを行った。逮捕者の家族のビデオを流し、出勤する従業員に訴えかけた。

これら進出企業にしてみれば、現地の国内法や政府に従わなければならないという義務がある。それに対し、タラさんは、アメリカ企業は民主主義



インターネットによる表現の自由を制限している15カ国の国を「インターネットのブラックホール」とし、それに反対するキャンペーン・ポスター

「ブロガーとサイバー反体制者へのハンドブック (Handbook for Bloggers and Cyber-dissidents)」。無名でブログを行う方法や検閲のくぐり抜け方までを解説

スマリヤテレビ局のイラク人ジャーナリスト、Rim ZeidとMarouane Khazaal。2月1日に誘拐され、まだ消息はわかっていない。イラクでは2003年のイラク戦争勃発以来40人のレポーターが誘拐され、そのうち5人が殺害されている

というアメリカが誇りとする思想をビジネスにも持ち込まなければならないとする立場だ。

「現状を変えるにはアメリカ側からのもっと積極的な努力が必要です。rsfは政府だけではなく、投資家とも聴聞会などを重ねて、これら企業に圧力をかけるよう働きかけています」

反政府的な話題や情報をサイバー上で伝える人々を「サイバー反体制者」と呼ぶ。彼らの活動場はウェブサイトよりも監視が難しいブログに現在移行している。

rsfはこれらブロガー達を「市民による市民のためのグラスルーツ・ジャーナリスト」と呼び、彼らをサポートする目的で、「ブロガーとサイバー反体制者へのハンドブック」という本を出版。サイト上でも公開し、ブログのセットアップの仕方から、無名でブログを行う方法や検閲のくぐり抜け方までを解説する。

ブログによって、初めて自由な会話が可能になったというバーレーンやネパールからの証言も紹介。また、国内事情を外へ伝えることが目的の英語のブログ、「ブリッジ・ブロッグ」も支援する。

rsfによると、現在56人のサイバー反体制者が投獄されており、ブログは表現の自由を求める人々と抑圧政府との新しい戦線と言える。

## 先進国でも脅かされる表現の自由

民主主義の先進国でも表現の自由が脅かされている。

「アメリカ政府はイスラム狂信者を監視するという目的でメールの監視や盗聴などを行って



3月31日付け「クリスチャン・サイエンス・モニター紙」の表紙。トップニュースは、イラクで誘拐された当社レポーター、ジル・キャロルの釈放に関する記事。アメリカ人、女性、そして、キリスト教をベースとする新聞のレポーターということで、彼女の誘拐には三重の意味合いがあった

います。しかし、私達が監視されていないとどうして言えるでしょうか。法律で守られているはずの私達の権利が、USAパトリオット法(ブッシュ政権が急遽成立させたテロ対策特別法)によって脅かされているのです。9・11事件後、国民のテロへの恐怖心が高まり、ブッシュ政権にあまりにも多くの権限を与えてしまいました。その結果、国民のプライバシーが侵害されているのです」

自主規制も大きな問題だとタラさんは言う。

「ジャーナリストはどうして政府に対してこうも弱くなったのでしょうか。編集の意向や広告収入が重要で、売れる話が好まれるのです。例えば、毎晩、12時から3時までイラクで戦死した兵士が飛行機で本国に戻ってきますが、こんなに多くの数の兵士の死体が戻ってきているとは誰にも知られたくないし、誰も知りたくない。アメリカの国旗を掲げ、『すべてうまくいっている』。このようなメディアが売れるのです」

政府や企業によって準備された情報ではない、その裏にある真実を知りたい。多くの市民のそんな気持ちに応えるためにも、インディペンデントなレポーターの活躍は不可欠だ。そして、それをサポートするrsfの活動はこれからさらに重要になるだろう。

「各国から非難を浴びることもあります。もちろん、やめません。レポーターを抑圧する国になんとわれようが無視です」

タラさんの最後の言葉は、とても力強かった。

Text by : Jun Moto

On February 22, Chinese authorities detained filmmaker and blogger Hao Wu. He has not been charged with a crime. We appeal to the Chinese government for HAO WU's immediate release.



2月22日から中国政府に逮捕され投獄されている映画製作者であり、ブロガー、Hao Wuの釈放を求めるバナー

新聞写真で見た2005年(Le journal de l'année 2005 en images)。レポーターの「客観性に支えられた公正さ」を重視するrsfはどの政府からも寄付を受け付けない。報道写真家から寄付された写真を集め、編集したこのような本からの収入は大切な財源だ



イラク・ブラックブック。イラクの人権問題に対するレポート。イラク以外にも、中国、キューバ、アルジェリア、チュニジア、イスラエル・パレスチナ問題などについてのレポートも出版

キャンペーン広告。「あるアフリカの国では無法に野生の動物を殺すと投獄されるが、ジャーナリストを殺してもそうとは限らない」

ウォール・ペーパーならぬ「ウォール・ニュース」。「国境なきレポーター」による1ページのデジタル週刊紙

地震で家をなくしたバクスタンの少女 (Le journal de l'année 2005 en imagesより) ©AFP / Saeed Khan, October 10th, 2005

フランスの都市部で起きた暴動 (Le journal de l'année 2005 en imagesより) ©Lionel Bonaventure, November 7th, 2005

